

2008年10月3日発行

飯田市歴史研究所  
〒395-0002  
長野県飯田市内郷飯沼3145  
電話 0265-53-4670  
FAX 0265-21-1173  
E-mail iihrr@city.iida.nagano.jp

News Letter No.36  
The Iida City Institute of Historical Research

歴研ニュース

## 報告 第6回 飯田市地域史研究集会 9/20(土)・9/21(日)

### 「伊那谷の古墳と古代の舎人軍団」をテーマにシンポジウム開催



シンポジウム講師の吉村武彦さん  
1945年生まれ。東京大学文学部国史学専攻。明治大学大学院長。日本古代史を専門とし、主な著書に『日本古代の社会と国家』(岩波書店、1996年)『古代史の新展開』(新人物往來社、2005年)など。

今回の地域史研究集会は、古墳時代後期を中心に、古代の飯田・下伊那地域が果たした役割・実像に、考古学・古代史学(文献史学)の双方から迫りました。「遺跡・遺物など残された物から過去を考える」考古学と、「文字史料を土台にした」文献史学という異なる分野の研究者が、同一のシンポジウムで同一の時代を討論する点でも画期的な研究集会となり、20日・21日を通して延べ約200名と、多くの方に参加していただきました。

今回のシンポジウムは考古学、古代史ともに「馬」をテーマとしました。古墳時代の飯田・下伊那地域は馬の生産地であり、「牧」と呼ばれる馬を育てる牧場のようなのが多くありました。牧の経営をする舎人の存在も確認されています。古墳時代の交通手段であり、軍事とも密接に関わっている馬を考へることは、東日本と西日本の交流の様子、ヤマト王権が勢力を拡大しようとする姿を考へるにもつながります。

セッション1「古代の牧と宮号舎人氏族」では、伊那谷の牧とその経営者である宮号舎人について、文献史学の側から山口英男さん(東京大学史料編纂所教授)と田島公さん(東京大学史料編纂所教授)の報告がありました。残された少数の古代の史料を綿密に解釈することにより、牧を通して伊那谷の古代史像を再構築しようとするところに特徴がありました。

吉村武彦さんの記念講演「東国の国造」は、東国、科野(信濃)との関係から、ヤマト王権の地域支配のあり様を考へようとするものでした。

セッション2・3「古墳と騎馬集団1・2」では、考古学の側から4本の報告がありました。セッション2の土生田純之さん(専修大学教授)、鈴木一有さん(浜松市)の報告は、東日本や東海地方から伊那谷の古墳の形態を見ることによって、ヤマト王権と時に対抗し、時に共鳴する独自性を持った飯田・下伊那の姿を浮かび上がらせた。セッション3の風間栄一さん(長野市教育委員会)、渋谷恵美子(飯田市教育委員会)の報告は、長野県内、飯田・下伊那地域内の遺跡・遺



集会の様子(左)シンポジウム質疑応答(右)地域史研究報告

物を丹念に見ながら、長野県内各地の交流、小地域ごとに独自性を保ちつつも、全体を支えている飯田・下伊那の地域的特徴を示しました。

古墳時代の飯田・下伊那は古代日本を考へる上で重要な意味を持っていることが確認され、考古学と文献史学との交流の中から、異なる研究分野の人にも大きな刺激を与える報告でした。

### 地域史研究の成果も発表

21日午後からの研究報告会では、飯田・下伊那地域を中心とした様々な時代、分野の地域史の報告4本がありました。清内路村の中老(壮年を中心に結成された村の集団)を取り上げた坂本広徳さん、総合的な学習の時間に古代の生活の復元・体験に取り組んでいる飯田市立竜丘小学校6年2組の皆さん、伊那層に埋没していたシカマシフゾウの化石を発掘した飯田市美術館学芸員小泉明裕、鳩ヶ嶺八幡宮(飯田市松尾)を通して寺社鎮の社会構造を見ようとした歴史研究所研究員竹ノ内雅人の報告がありました。竜丘小学校の松澤和憲教諭は、「発表することで、自分たちの活動が社会的に位置づけていることが子どもたちに分かるきっかけになれば」と話されました。



子どもたちが制作した土器

## 飯田アカデミア

歴史学を中心とした専門研究者が、広い視野から、興味深い研究の最新線をつらややくお話しします。ぜひ聴講ください。

第45講座 11月29日(土)午後1時30分~午後5時(4コマ) 11月30日(日)午前10時~午後2時30分

①「邪馬台国からヤマト王権へ」  
②「倭の五王とワカタケル」  
講師: 吉村武彦さん(明治大学大学院長)

①東アジア世界のなかで、邪馬台国とヤマト王権の成立の歴史的意義を考察する。講義の構成は、(1)東アジアの倭国、(2)邪馬台国、(3)ヤマト王権の成立、(4)王宮と玉墓(前方後円墳)、を柱とする。  
②4世紀末にヤマト王権は難波に移動し、朝鮮半島に進出し、中国・宋と外交関係を結ぶ。倭の五王である。講義の構成は、(1)好太王碑文、(2)倭の五王、(3)ワカタケルの時代、(4)渡来系集団、である。

- 1コマは90分です。
- 会場 飯田市内三丁目3階会議室(飯田市本町1丁目15番地、地域交流センター)
- 募集人数 各講座30人
- 受講料 1コマ100円(資料代)

第46講座 12月13日(土)午後1時30分~午後5時(4コマ) 12月14日(日)午前10時~午後2時30分

①信州教育の栄光と挫折と再生  
②下伊那教育の栄光と挫折と再生  
講師: 宮坂廣作さん(東京大学名誉教授)

①明治期には就学率の高さで教育熱心県として知られ、大正期には新教育の先進県として憧憬された信州教育が、昭和初期以来衰退していったのはなぜか。いま日本の教育全体が混迷、沈滞している中、それは再生できるのか。  
②下伊那は県央から見れば辺境の地だが、古くは太宰春台、近くは西尾実のような逸材を生み、進歩的な土地柄であった。とくに青年運動や新興教育運動で突出した。下伊那教育の歴史を振り返り、明日を展望したい。

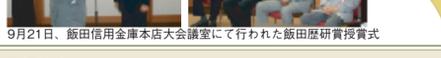
- 申込み・問い合わせ 電話、ファクシミリ、Eメール、ながの電子申請サービス(http://shinsei-i.nagano.lg.jp)で、歴史研究所へお申込みください。
- ファクシミリまたはEメールでお申込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

定例研究会 研究活動促進のため、公開研究会を飯田市歴史研究所において定期的に開催します。

- 10月25日(土)午後2時~午後4時 「1920~1930年代の農家経営」 鬼塚 博(研究員)
- 11月8日(土)午後2時~午後4時 「高度経済成長期における農業政策の受容形態」 坂口正彦(調査研究補助員)

## 飯田歴研賞2008

飯田歴研賞は、飯田・下伊那の地域史研究における優れた論文や著書等を表彰するものです。今年度の受賞作品をご紹介します。



9月21日、飯田信用金庫本店大会議室で行われた飯田歴研賞授賞式

論文部門	橋部進著「それからの羽生三七一敗戦までの思想的変遷一」(『飯田市歴史研究所年報』5号、2007年所収) 旧籍村出身の政治家羽生三七一について、新史料を用いてその足跡を丹念に追ひ、思想と活動の変化を分析した本論文は、戦中期の飯田・下伊那の政治構造を明らかにする広がりを持っています。また、地域の人物を昭和政治史に位置づける分析視角も評価されます。
著書部門	『満洲泰阜分村一七〇年の歴史と記憶』編集委員会編 『満洲泰阜分村一七〇年の歴史と記憶』(不二出版、2007年) 満洲移民体験者と泰阜村の住民、研究者との協働により生まれた本書は、聞き書き・座談会・論考のアンサンブルから満洲移民の歴史と現在を叙述。戦後60年を過ぎて、はじめて泰阜村の「大八浪開拓団」が歴史として対象化された記念碑的著作です。
奨励賞	竜丘公民館民俗資料保存委員会編 『続々々 丘の語らふ心ゆたかに今を生きて』(竜丘公民館、2007年) 昭和56年の第1巻刊行以来、延べ300人もの人々が、竜丘地域の歴史・生活・文化について生活者としての目線で語る4巻目。竜丘をかけがえのない生活地域ととらえ、これほどの規模で地域の歴史総体を当事者の言葉で後世に伝えようとしているのは特筆すべきです。
	久保田安正編 『伊豆木小笠原家の御用日記』(南信州新聞社出版局、2007年) 1724年(代寄小笠原家の「御用日記」から享保9(1724)年分を翻刻。丁寧な用語解説など、古文書学習にも有益に編集され、また江戸時代中ごろの旗本家の生活を知るうえできわめて貴重な史料集です。編者と地元の三穂史学会の方々の活動の成果として大変評価されます。

## 歴史の面白さと大切さ知って 一高校生を対象に 歴史学オリエンテーションを開催

飯田・下伊那地域は遺跡や古文書などが数多く残され、実りある地域史研究も積み重ねられています。しかし、地域に残されている史料にふれて、その内容を読み取り歴史の奥深さや面白さを感じることが出来る機会はないかありませぬ。

そこで、歴史に興味を持ち、将来歴史を学びたいと希望する高校生を対象に、大学の史学科レベルの講義を飯田・下伊那の史料に基づいて行い、史料調査を体験して、全般的な日本史だけでなく、地元の歴史を考へるきっかけになればという趣旨のもと、去る7月28日、「歴史学オリエンテーション」を開催しました。

当日は飯田・下伊那や上伊那から11人の高校生が参加しました。まず、当該研究員の竹ノ内が中学生・高校時代から研究員となった現在に至るまでの過程を話し、「昔のことを知りたくても、多くの災害や地理的条件によって史料が失われ、詳しく調べられず残念な思いをすることが多々あります。この地域はたいへん史料に恵まれたところですので、皆さんにはぜひ地元の歴史に興味を持ち、調べて、大切に守りたい」と話しました。

次に研究部長の吉田が「史料から読み解く 江戸時代の飯田・下伊那」という題目でミニ講義を行いました。



ミニ講義を受ける高校生の皆さん

飯田町や清内路村などに関する古文書コピーを史料として用い、史料の読み解きを通して論点を見つけ、過去の事実を明らかにしていく歴史学の方法を紹介しました。こうした作業から、私たち自身をつくつてくれた先祖の生きた社会、「ふつうの人々」の息づかいを復元することが大切であると述べました。

この後生徒の皆さんは考古学・近世史・近現代史・建築史担当の所員に質問や相談をし、また、実際の史料調査の様子を見学しました。高校生から「このような史料はほかの地域でもよく出てくるのか」といった、生の史料にふれて感じた疑問や、「歴史学を学ぶためには具体的にどうすればよいのか」といった将来の志



望に開く質問が飛び交い、所員の説明に熱心に聞き入っていました。

望に開く質問が飛び交い、所員の説明に熱心に聞き入っていました。

### 市民の声 100年後には どうなっているのだろうか?

濱田里美さん(建築ゼミ)

建物や町並み、路地が好きで、飯田近辺の記録にと、携帯している小さなデジカメでその姿を取っています。壊されていく古い建物を見ながら「私にできる何かの形で残しておきたい」と思ったのがきっかけです。歴史研究所の金澤さんには、100年前に建てられた家がある、その横に新しく建てられた家は100年後にはどうなっているのだろうか?そんな見方を教えていただきました。「いま」も歴史の通過地点。これからは町歩き「目」を磨きつつ、日常の記憶を集めていきたいと思っています。

### 歴研ゼミ 10・11月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時~8時40分(各ゼミ共通)

**近世史ゼミ**  
近世下伊那の民衆生活史  
■開催日 第1・第3火曜日 10月7日・21日 / 11月4日・18日  
■担当 竹ノ内雅人(研究員)

**近現代史ゼミ**  
地域社会入門-飯田町の記憶を探る-  
■開催日 第2・第4木曜日 10月9日・23日 / 11月13日・27日  
■担当 田中雅孝(調査研究員)

**現代史ゼミ**  
地域社会とグローバルゼミ  
■開催日 隔週水曜日 10月11日・15日・29日 / 11月12日・26日  
■担当 鬼塚博(研究員)

**建築史ゼミ**  
建築と町並みの見方  
■開催日 第2火曜日 10月14日「茶室」 / 11月11日  
■担当 金澤雄記(研究員)

### 『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集 6』

戦時中、飯田・下伊那から満洲へ農業などをするため渡り、帰国された方7名の聞き書きを収録しました。農夫勇助として参加した方、中国の義勇隊に参加して40年間残留した方、帰国してから再び根羽村や茨城県に開拓のために入植された方のお話が入っています。幾多の苦境に遭いながら生き抜いてきた方々の記憶をとどめ、この地方と満洲の歴史が解明されていきます。

B5判 219頁 定価500円(税込)  
満蒙開拓を語り つぐみ 飯田市歴史研究所発行

申込み・問い合わせ 飯田市歴史研究所 ☎0265-53-4670 FAX 0265-21-1173

### 地域史講座 飯田・下伊那の歴史

江戸時代末期から戦後にかけて、伊那谷の主力産業だった養蚕をテーマに、2つの講座を開催します。

●10月19日(日) 午後2時~午後4時  
「盛んだった組合製糸」  
・講師 田中雅孝(調査研究員・松川高校教諭)  
・場所 飯田市歴史研究所研修室

●11月21日(金) 午後7時~午後9時  
「実用された桑葉」  
・講師 上山和雄(顧問研究員・國學院大学教授)  
・場所 川路公民館2階講義室

※事前申込みは不要です  
〔明治二十一年栽培桑葉実用〕(原常吉氏蔵)の歴史  
〔歴史研究所蔵「みるよま」(原常吉氏蔵)の歴史〕

### 歴研日誌

- 2~3日 宮下金善氏所蔵文書調査(東京外国語大吉田ゆり子ゼミ主催)に参加
- 5日 全史料協働東支支部会研究会・報告会
- 6日 現代史ゼミ「工業化の規模」
- 16~17日 美術まつり「建築史ブース」
- 18~20日 歴光寺小学校所蔵文書調査
- 16~19日 清内路村下区有文書調査(東大吉田ゼミ主催)に参加
- 19日 近世史ゼミ「水戸浪士宛歴光寺北原稻雄等問達通行願」
- 20日 地域史講座「工業化と農地転用」(講師:岩本純明) 〔天竜川西岸の大きな村〕(講師:吉田ゆり子)
- 20日 聞き取り調査「中田製糸について」(中田滋男さん)/現代史ゼミ「低賃金労働」
- 20日・25日 長姫高校建築科生徒と竹ノ内家住宅(高森町・重要文化財)の実測調査
- 22日 聞き取り調査「戦後における農政と地域」(高橋勉さん)
- 23・24日 NPO「緑の家学校」飯田校、講演・フィールドワーク
- 28日 近現代史ゼミ「文獻講読『日本列島にみる中央と地方』」
- 30日 岡田昭夫家調査(飯田市箕瀬町)
- 1日 長姫高校建築科生徒と竹ノ内家住宅の実測調査
- 2~4日 泰阜中学校生徒職場体験学習受け入れ
- 2・4・6・9日 南原区民センター史料調査(飯田市下久堅南原)
- 3日 現代史ゼミ「近代化の特徴」/後藤信正家調査(飯田市松尾)
- 9日 建築史ゼミ「近代化労働」
- 11日 近現代史ゼミ「文獻講読『昭和の記憶を掘り起す』」
- 12日 『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集 6』発刊/松澤卓治家現状調査・建物実測調査(飯田市宮の宮)
- 17日 現代史ゼミ「低賃金労働と政治」/『飯田市歴史研究所年報6号』発刊
- 19日 研究員会議
- 20~21日 第6回飯田市地域史研究集会「シンポジウム:伊那谷の古墳と古代の舎人軍団」/「研究報告会」
- 21日 飯田歴研賞授賞式
- 22日 飯田の主要な古墳・考古資料館見学会
- 24日 飯田ロータリークラブ学習交流会
- 25日 近現代史ゼミ「文獻講読『昭和の歴史を掘り起す』」聞き取り調査について
- 27日 冊の歴史を学ぶ会 学びあい講座
- 27~28日 第2回歴光寺地区史料調査会
- 継続調査 後藤信正氏所蔵文書、今村八東氏所蔵文書、義本信正氏所蔵文書、北原義雄氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵中伍市関係史料、上松家所蔵文書、菊地謙一史料、中原謹司史料、橋本氏史料、岡田昭夫氏所蔵文書、南原区民センター史料、部奈一朗氏所蔵文書

### 10月・11月の催事スケジュール

	10月	2008	11月
水	現代史ゼミ	1 土	
木	木	2 日	
金	金	3 月	
土	土	4 火	近世史ゼミ
日	日	5 水	
月	月	6 木	
火	火	7 金	近世史ゼミ
水	水	8 土	定例研究会
木	木	9 日	近現代史ゼミ
金	金	10 月	
土	土	11 火	建築史ゼミ
日	日	12 水	現代史ゼミ
月	月	13 木	近現代史ゼミ
火	火	14 金	建築史ゼミ
水	水	15 土	現代史ゼミ
木	木	16 日	
金	金	17 月	
土	土	18 火	近世史ゼミ
日	日	19 水	地域史講座
月	月	20 木	
火	火	21 金	近世史ゼミ
水	水	22 土	
木	木	23 日	近現代史ゼミ
金	金	24 月	
土	土	25 火	定例研究会
日	日	26 水	現代史ゼミ
月	月	27 木	近現代史ゼミ
火	火	28 金	
水	水	29 土	現代史ゼミ
木	木	30 日	アカデミア 第45講座
金	金	31 月	//

開所日 休所日  
開所時間 午前9時~午後5時  
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日